

競技規則及び方法 (2024 年度版)

1. 大会特別規則

- (1) 競技場規格は、塁間距離 25 m、投手板・本塁間距離 17 m、両翼 75 m・センター 85 m とする。
球場ルールにあわせて、外野仮設フェンスを設置する。
- (2) 試合は 7 回戦とし、試合時間は 1 時間 40 分とする。(準決勝以上は、時間制限なしで行う)
 - ・ 同点の場合は、特別延長戦 (タイブレーク方式) を適用する。
 - ・ 特別延長戦 (タイブレーク方式) は、継続打者で、無死 1・2 塁として、走者は順次、前の打者とする。(勝敗が決しない場合は、これを繰り返す)
- (3) 試合時間の判定については、当該審判員に一任する。
- (4) コールドゲームは、5 回終了時 10 点差とする。(決勝戦を除く)
- (5) 降雨等により試合継続が困難となった場合、5 回終了以降は正式試合とする。
なお、5 回以前に中止になった場合、5 回を過ぎて同点の場合は特別継続試合とし、翌日の第 1 試合前に行う。(全試合適用)
- (6) 抗議権を有する者は、監督か当該プレーヤーのいずれか 1 名とする。
- (7) 守備側のタイムの回数制限
 - ① 監督またはコーチ等が 1 試合に投手の所へ行ける回数は 3 回までとする。(5.10 l (2) は適用しない)
投手交代の場合、投手と捕手の打ち合わせ(サインの確認)のために、準備投球の前あるいは後に少しでも会話することは、捕手または内野手の回数に含まない。
 - ② 捕手または内野手が、1 試合に投手の所へ行ける回数は 3 回までとする。
野手 (捕手も含む) が投手のところへ行った場合、そこへ監督またはコーチ等が行けば、双方 1 回として数える。逆の場合も同様とする。
投手交代の場合は、監督またはコーチのみ回数には含まない。
- (8) 攻撃側のタイムの回数制限
 - (1) 攻撃側のタイムは、1 試合に 3 回までとする。
※なお、(7)・(8)とも延長戦 (特別延長戦を含む) となった場合は、1 イニングに 1 回行くことができる。
- (9) 大会では指名打者ルールを使用することができる。
- (10) 投手の 12 秒及び 20 秒ルールを準決勝以上は、採用する。
(12 秒及び 20 秒ルールの取り扱い基準：参照)
- (11) 監督またはコーチは、コーチボックスに出ることは禁止する。
- (12) 塁上の走者、あるいはコーチボックスやベンチから守備側 (捕手) のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
- (13) 試合中の言動等は充分注意すること。
また、大学生らしく品位を重んじ爽やかなプレーを旨とする。なお、応援などにおいても同様。
- (14) 本規則に定められていない事項が生じた場合は、審判員協議の上、大会審判長の権限により処理する。

2. 危険防止のため次の用具を使用する。

- (1) 打者用ヘルメットは必ず用意し、打者・次打者・走者・ベースコーチは必ず着用する。
- (2) 捕手は捕手用ヘルメットを着用する。捕手用ヘルメットはマスクを分離したものが望ましい。
また、プロテクター・レガースは必ず着用する。
- (3) 上記の各用具及びバットは、(公財)全日本軟式野球連盟公認の物を使用する。
- (4) 素振り用の鉄棒(鉄パイプを含む)バットリング・長尺バットは使用してはならない。
- (5) スパイクは、金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。
※スパイクの色は自由とし、全員同色でなくても構わない。

3. 競技運営に関し、次のことを規定する。

- (1) 試合中のダッグアウト(ベンチ)の中に入れる人員は次の通り、「参加申込書」に記載された部長・監督・コーチ2名・マネージャーと選手10名以上25名以内の計30名以内とする。
- (2) 背番号は、監督30番、コーチ29番、28番、主将を10番とし、選手は0番から99番とする。
- (3) 合同チームで出場する場合、背番号の重複を避け、元のチームのユニフォームでの大会参加を認める。
- (4) 監督・コーチが選手として出場する場合は、「参加申込書」の選手欄にも必ず記述する。
- (5) 短期大学チームは、短大卒業後2年間は選手資格があるものとする。
- (6) ダッグアウトの中で電子機器類(携帯電話、パソコン等)の使用することは禁止する。
電子スコア記録用として1台認める。指示用メガホンは、ベンチ内に限り1個の使用を認める。
- (7) ダッグアウトは、組合せ表の左側の方を1塁側とする。
- (8) 試合前のシートノックは5分間とする。ノッカーも必ずユニフォームを着用すること。
但し、シートノックなしで試合を開始することもある。また、シートノック中のベンチ前等でのノックは禁止します。
- (9) 球場内でのフリーバッティング練習は認めない。
グラウンド内での練習は、ランニング・キャッチボール・トスバッティング程度に限る。
- (10) 第1試合のチームは、開始予定時刻30分前、第2試合以降は、前の試合開始1時間後、または4回終了時に審判室前で、メンバー表4部(ふりがなを付ける)登録メンバーの確認を受ける。
その際、主将によって攻守の決定を行う。
メンバー表の用紙は、大会本部で用意した用紙を使用する。(審判室まで取りに来る)
- (11) 投手は、いずれの手、指または手首に何もつけてはならない。なお、負傷等でテーピング等を使用したい場合は、審判員の承認が必要である。
- (12) 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。
- (13) ボールパーソン及びグラウンドキーパーは、決められた学生委員が担当する。
- (14) 試合開始時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (15) 雨天の場合でも、日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は、基本的に試合を行う。